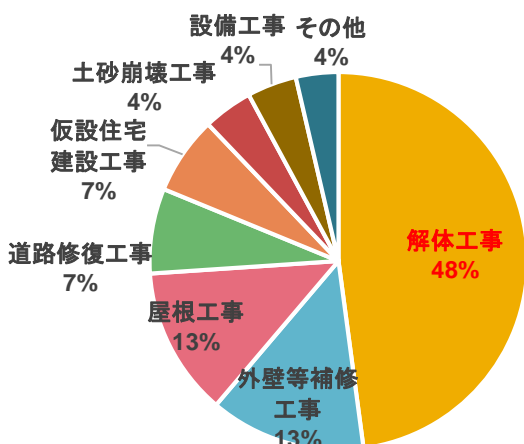


地震により被害を受けた建物の 解体・改修作業中の安全管理の徹底を！

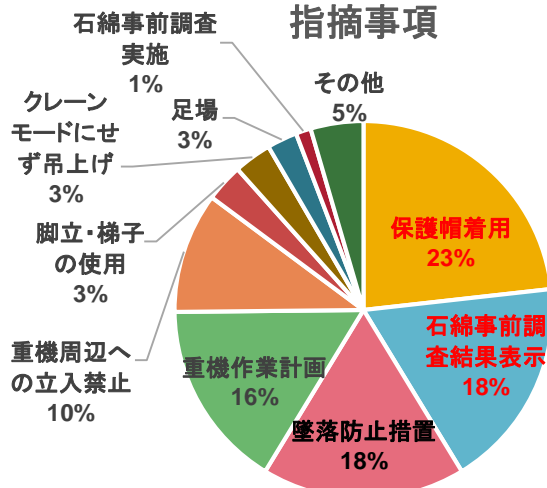
令和6年1月1日に発生した能登半島地震により甚大な被害が発生した能登地区において、現在、災害復旧工事が本格化しています。工事の本格化に伴い、七尾労働基準監督署管内において、復旧工事中の労働災害が多発している状況です。労働災害が発生すると、工事の進捗にも影響が生じ、早期復興の妨げになると思われまますので、災害復旧工事の関係者の皆様には、労働安全衛生法及び関係法令を遵守し、作業員の安全衛生を確保した工事を進めていただきますようお願いいたします。

- 令和6年4月から同年8月末において当署管内の復旧工事現場を巡回指導したところ、**23%の現場で保護帽を着用していない作業者が確認されました。**また、**18%の現場で公費解体を含めた解体工事現場における石綿（アスベスト）含有の有無を調査した事前調査結果が掲示されていませんでした。**そのほか、**18%の現場で屋根工事などの高所作業にあたり、手すりを設けたり、親綱を設置し、墜落制止用器具を着用するといった、墜落防止措置がない状況が確認されました。**

現場の割合



指摘事項



ヘルメット（保護帽）を適切に着用しましょう

上記とおり23%の現場で保護帽を着用せずに作業が行われていました。作業時間中の気温が高く、保護帽を被ることが不快であるなどの理由で未着用としている現場が見受けられますが、保護帽を着用することは、万が一の墜落災害から身を守るために非常に重要です。日本ヘルメット協会が実施した人形を用いた高さ約1mからの墜落実験では墜落時保護用の保護帽を着用した場合には、保護帽を着用しなかったときに比べ、頭部にかかる衝撃荷重は半分以下となるデータが公表されています。



保護帽には、「飛来・落下物用」、「墜落時保護用」、「飛来・落下と墜落時の兼用の物」などがありますので作業に合わせた保護帽を使用してください。作業に合致しない保護帽を使用した場合は、ほとんど効果を発揮しません。保護帽の耐用年数や、摩耗状況を定期的に点検し、不具合が認められた場合は使用を中止しましょう。

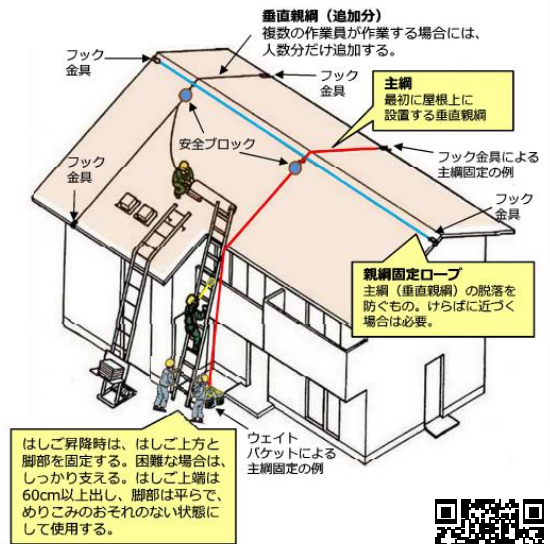
墜落災害をなくすために

墜落災害は、その多くが死亡を含む重大な労働災害につながる恐れがあり、確実な対策が必要です。能登半島地震により多くの家屋が被害を受け、家屋の屋根瓦が破損したことから、現在多数の瓦葺き替え工事が行われているところです。

本来であれば、足場を組み立て、労働者の墜落を防止することが原則ですが、現場や工期によっては、足場を組むことが困難であるものもあるかと思えます。そのようなときは右図のとおり、親綱固定ロープ等を使用し、要求性能墜落制止用器具を着用できる設備を使用してください。また前頁のとおり屋根上で作業を行うときは必ず墜落時保護用の保護帽を着用してください。

また、発注者におかれましては、安全対策のために使用する設備費用も請負代金に加えていただきますようお願いいたします。

【操作棒を使った地上からの主綱設置の例】



石綿（アスベスト）の掲示をしましょう

解体工事においては、工事の規模、請負金額にかかわらず、石綿の含有の有無について、資格者による事前調査を実施していただいているところです。この事前調査は結果を右図のように、労働者の見やすい位置に掲示する必要があります（石綿障害予防規則第3条第6項）。しかし、当署管内の解体工事現場では、掲示状況が低調な傾向にあります。

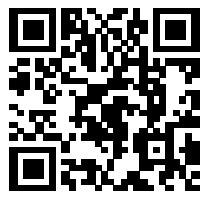
地震により全壊、半壊等の建屋を解体するときは、建屋内部に入って事前調査を行うことが困難な場合があります。そのときは、石綿建材が含有されている可能性のある箇所は解体せずに、そのほかの箇所を解体し、事前調査を行うことができる状態になったときに事前調査を実施し、掲示を行いましょ。それ以外の方法としては、石綿が含有しているとみなして飛散防止対策をした上で、解体作業を行うことも可能です。

石綿含有成形板等の工事を行う場合の掲示例

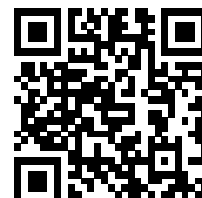
事前調査結果の掲示は、石綿が無い場合も必要です。

労働災害の防止対策のためのツール

厚生労働省「職場のあんぜんサイト」や「石綿総合情報ポータルサイト」では、労働災害を防止するための安全活動事例や石綿作業に関する情報などを公開しています。これらを参考にしながら、皆さまの事業場に適している労働災害防止対策を導入してください。



職場の安全サイト



石綿総合情報ポータルサイト

上記ツールは、お手持ちのスマートフォンやタブレット等で自宅等でもご覧いただくことが可能です。法令の確認や労働者の安全意識の向上のためにお役立てください！